

更なる思索を自らに課さねば……

仏陀の教えの神髄を僅か262文字で表記されていると云われる「般若心経」の現代語訳の書籍「生きて死ぬ智慧」が、書店で平積みされているのを、度々店頭で目にしていた。

だが、若い頃に「般若心経」の解説書を読んだことはあるが、「空」や、21ヶ所も出てくる「無」の語彙・概念が自分には難解だったという体験からか、購入には至らなかった。

それでもいつかはもう一度……と思っていたところに、この本の著者に関する「いのちで読む般若心経－科学者の仏教感－（1時間半）」が、昨年暮れにアナログでアンコール放送された。

録画はしたが「難解」が念頭にあるだけに再生して見る気にはなかなかならなかったが、4月まで冬眠中のこととて時間もあり、勇気を出して見た。

著者は若い頃には世界的にも注目された女性の生命学者であり、31歳の時に原因不明の病に冒され、以後36年に及ぶ病との闘いを続ける孤独な心を救ったのが「般若心経」だったという。

長い闘病生活と生命学者としての思索を通して見つめた「般若心経」の世界を、番組の中で詳しく解説した。

その中で、著者は次のように触れている箇所があった。

「人はなぜ苦しむのでしょうか ほんとうは 野の花のように わたしたちも生きられるのです もしあなたが 目も見えず 耳も聞こえず 味わうこともできず 触覚もなかったら あなたは 自分の存在をどのように感じるのでしょうか これが『空』の感覚です」

「お聞きなさい あなたも 宇宙のなかで 粒子でできています 宇宙のなかの ほかの粒子と一つづきです

ですから宇宙も「空」です あなたという実体はないのです あなたと宇宙は一つです」

「あるがまま なるがまま」をモットーとし、宇宙カレンダーから生命の繋がりを授業で語っている自分だけに、若い頃と比べて少しは何となく解るような…… ウ～ン 解らないような……。

自分は、HPの記事を作る作業等の中で思索を重ねことを自らに課しているつもりだが、まだまだ思索がたりないよう……。

それはさておき、背景に流れる自然界の画像に我を忘れる。最初の放送は、ハイビジョンだったのは、この背景画像からして頷ける。

この背景画像だけでも一見の価値あり。

自然界の画像に我を忘れるということは、「あなたと宇宙は一つです」という理解への一歩かな。

(2006年2月22日 記)